

視聴覚教育

NO 136

発行日

62. 10. 1

発行所

岡崎市AVL

編集

広報委員会

コンピュータ時代を迎えて

パソコン・アナライザー委員会委員長 畔柳 正弘

いよいよ小学校にもパソコンが導入されることになり、夏休みの実技講習をはじめとして、着々と受け入れ準備が進められている。市御当局の格別の御配慮に心から御礼申し上げまするものである。

臨教審が重点的に取り上げた情報リテラシー教育に関して、一中学校の授業のなかでコンピュータを使う教育が一般化するのは何年くらい先か。一について小・中・高校の教職員と大学・研究所の教育学研究者を対象にした調査がある。それによると十年後に「一般化」すると見る有識者が圧倒的（四一・〇％）であり、五年後（一八・一％）、一五年後（一七・一％）がそれに続いて、相当に意見は別れている。

興味があるのは、普及には十年以上かかるとする予測の根拠として、教育財政の抑制、良質のソフト作成のための時間とともに、教師の問題が多く指摘されていることである。

「ニューメディアに対する拒絶反応は年配教師に多い。一般化するには相当の日時を要する。」一この問題の最大のネックは教員の資質である。コンピュータ、ワープロが日常生活に浸透したのは現在の中学生である。彼らが教員となったとき、施設の充実とあいまって一般化すると思う。」等々。TV・OHP等教育機器の導入にかかった年数から判断すれば至当な予測であるが、私たちの急務は、私たち自身が資質を向上させ、意識を改革させることによってこの予測を覆させることである。そのためには、先ず自分自身の授業の質を高め、教育機器活用についての確固たる見識をもつことであろう。所詮、教育は人に始まり、人に終わるのである。

----- 今月の教材 -----

----- 自作ビデオ -----

◆小2社会 いねかり稲を育てる人、1分

稲を栽培している人々の仕事を観察させ、土地や水・季節などの自然条件を生かしたり災害などを防ぐ努力、たくさん収穫するための工夫などを気づかせることに役立つ。

◆小4社会 体育館をたずねて 4分30秒

岡崎市体育館が人々の生活に潤いを与えていること、くらしを高める施設が身近なところであり、有効に利用されていることを理解させるのに適している。

ハードル走に挑戦

竜谷小

高山治朗

ハードル走は、五年生になって、初めて登場する種目で、一年たつて六年生になった今でも、子ども達にとって、なかなかとつきにくい運動である。特に、体育の専門でない私にとっては、難関の一つである。何といつてもハードリングのフォームはおいそれと身につくものではないからである。そこで何とか、私自身も好きになろうと、第一時に、ライブラリーのフィルム目録の中から、やっとのことで見つけた映画「しょうがい走」を観せたのである。はじめは、体育の時間をとられたような顔をしていた子ども達ではあったが、次第に、映像の中にのめり込んでいったようである。

「低くとんで、足のつま先をたてない。手を足の土ふまずの所まで伸ばす。」「三歩でとぶと良い。」とE子さん。肥満児の傾向にあるK君が、「前足をまっすぐ伸ばしてとぶ。体育が得意なBさんが「またぎ足は横に出してハードルにつかないようにする。」などハードル走の学習にとって、基礎基本となることを、わずか二十分あまりの映画の中から子ども達は読みとったのである。

私も含めて、やりたくないと言っていた子ども達も、最後の反省には、記録もほとんどあがっていったのでよかったなと速くなっていく自分に喜びを感じていたようである。

「教研集会報告」

桑木先生（大樹寺小）・小川先生（竜海中）

両教諭が県教研へ——視聴覚部会——

去る二十二日、南中学校で開催された第37次教育研究会岡崎集会所視聴覚部会は、三十余名の会員が日頃の実践記録を持ちより、活発な討論が展開された。

「子どもの可能性を伸ばし、心豊かな人間性を育てる教育の推進」をメインテーマに、①パソコン機能の理解とその活用
②授業で生かせる自作視聴覚教材の制作とその活用、③校内放送における双方方向システムの活用、④学習効果を高める放送学習の実践、⑤視聴覚教室やアナライザー教室の総合的な活用、等を中心に研究の成果が深められました。

県教研へは、桑木（大樹寺小）小川（竜海中）の両教諭が選ばれ、その活躍が期待される。

ライブラリーだより

16 ミリ映画B121「幼児とことば」29分

新しく購入の16ミリ映画「幼児とことば」は「幼児期（2〜4才）を中心に、ことばの環境づくりはどうしたらよいか。将来への人間形成にどうかかわっているかなど、母親の愛情のこもった呼びかけが幼児の発達に大きな役割をはたしている中で、この映画はより良いことば環境づくりを示唆してくれます。